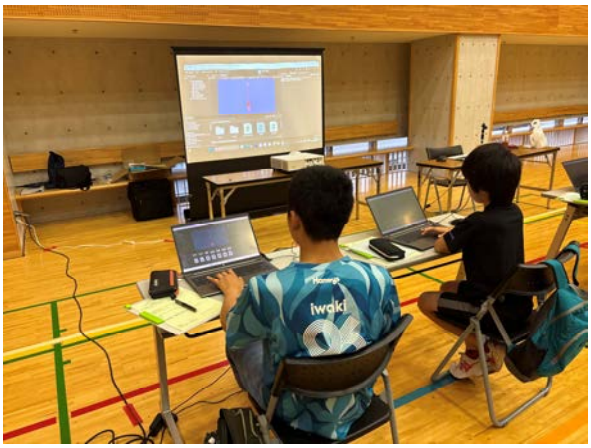
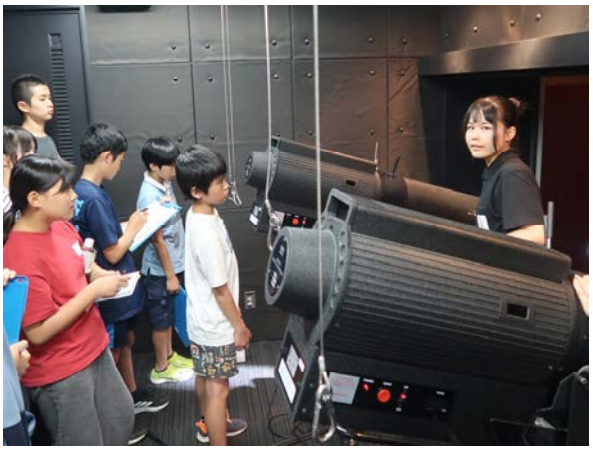
令和8年度　楽学プロジェクト

～職業のプロとともに夢を追いかける夏2026～

講座記録集













主催：楽学プロジェクト委員会　仙台市教育委員会
日時：令和８年７月２３日（木）・２４日（金）
会場：宮城野区中央市民センター　宮城野区文化センター　宮城野図書館

≪　目　次　≫

はじめに……1
A01 音楽演奏家の仕事……2
A02 弁護士の仕事……3
A04 フォトグラファーの仕事……4
A05 消防士の仕事……5
A06 B06 新幹線の仕事 ……6
A07 プラネタリウム投影の仕事 ……7
A08 学校の先生の仕事……8
A09 しょうがいのある方を支える仕事……9
A10 スポーツトレーナーの仕事……10
A11 パン屋の仕事……11
A12 歯科医師の仕事……12
B01 音響・照明の仕事……13
B02 水族館飼育員の仕事……14
B03 ロケットエンジン開発に関わる仕事…15
B04 保育士の仕事……16
B05 WEBデザイナーの仕事……17
B07 ファッションデザイナーの仕事……18
B08 薬剤師の仕事……19
B09 児童文学作家の仕事……20
B10 洋菓子職人の仕事……21
B11 和菓子職人の仕事……22
B12 自衛隊の仕事……23
C01 アナウンサーの仕事……24
C02 D02 医師の仕事……25
C03 プロスポーツ選手の仕事……26
C04 D04 イラストレーターの仕事……27
C05 栄養士の仕事……28
C06 ゲームクリエーターの仕事……29
C07 ウェディングプランナーの仕事……30
C08 D08 漫画家の仕事……31
C09 バス運転手の仕事……32
C10 本屋の仕事……33
C11 食品製造開発の仕事……34
C12 警察の仕事……35
D01 映像クリエーターの仕事……36
D03 動物園飼育員の仕事……37
D05 獣医師の仕事……38
D06 建築家の仕事……39
D07 キャビンアテンダントの仕事……40
D09 助産師の仕事……41
D10 パイロットの仕事……42
D11 看護師の仕事……43
D12 農家の仕事……44
ジュニアリーダーの紹介……45

はじめに

楽学プロジェクトは，仙台自分づくり教育の一環として，市内小中学生を対象に，毎年夏休みに実施している事業です。様々な職業のプロから働くことの大切さや難しさ，仕事にかける思い等についての話を聞き，体験などを交えながら将来の職業について考える機会を提供しています。

今年度も，7月 23日から 24日にかけて，宮城野区中央市民センターや宮城野区文化センター，宮城野図書館において，第 22回目の楽学プロジェクトを実施しました。昨年度に引き続き，今年度も講座数や参加者数を拡大しての開催となりました。当日は，事前に応募した中から選ばれた市内の小学5･6年生，中学生 1,037名（対昨年度比：−284名）が，計 48講座（対昨年度比：+3講座）に参加しました。

次ページからの各講座の様子や参加児童生徒の思い等をご覧いただければ幸いです。

●過年度の様子等については，仙台市教育委員会ホームページ「楽学（がくがく）プロジェクト」をご覧ください。

https://www.city.sendai.jp/shogaigakushu/kurashi/manabu/kyoiku/inkai/joho/kodomomuke/rakugaku.html

(または「楽学プロジェクト」で検索)

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号 A01

「音楽演奏家の仕事」活動紹介

■ 講師:〔氏名〕 山本 純 先生(チェロ)、及川 久美子 先生(ピアノ)
〔所属〕 フリー

■ 参加人数 23 人　　講座担当者　庄司 千穂

音楽演奏家として活躍されている山本純先生、及川久美子先生をお迎えし、演奏家になるための道のりや、演奏することのやりがいについてお話いただきました。ご経験に基づいた興味深いお話に加え、エルガー『愛の挨拶』、サン＝サーンス『白鳥』、映画音楽『ニュー・シネマ・パラダイス』などチェロとピアノのアンサンブル生演奏をご披露いただく場面もあり、参加者全員が音楽の魅力を存分に体感できる素晴らしい講座となりました。

1. 音楽演奏家の仕事とは



演奏家になるためには、いくつかの道があることを教えていただきました。オーケストラに所属する場合はオーディションの合格が必要であることや、ソロ活動の場合は特別な資格は不要であるものの、コンクール入賞などを通じて広く名を知られる必要があることなど、具体的な例を挙げてご説明いただきました。また、音楽の演奏には言葉や国境を越えて人と人とをつなぐ可能性があり、演奏する楽しさを多くの人へ伝えることが演奏家の重要な役割であるとお話しいただきました。

2. 演奏家を目指すためには



音楽演奏家を目指す道は厳しく、途中で断念する人も少なくありません。自分の好きな曲ばかりを演奏できるわけではないため苦労もありますが、山本先生は「そのプロセスの中にこそ演奏する楽しさを見出すことができる」と強調されていました。曲に向き合い深く考えながら練習を重ねることで、楽曲の素晴らしさを再発見したり、作曲家の思いに触れて感動したりすることにつながると語ってくださいました。

3. 音楽に関わる仕事の可能性



シンガーソングライターとしても活躍されている及川先生からは、オリジナル曲『幸(さち)』の弾き語りを披露していただきました。また、演奏家にとどまらず、ゲーム音楽の制作、音楽マネジメント、楽器製造など、音楽に関わる幅広い仕事の可能性についてご紹介いただきました。さらに、福祉分野における「音楽療法」のように、演奏を通じて人の心身の課題にアプローチする取り組みについても分かりやすく解説していただきました。

4. 質疑応答～先生からのメッセージ～

Q. 演奏家になるためには、普段どんなことをしたらいいですか？

A. たくさん練習をして上達することが第一です。ただし、ただ繰り返すのではなく、「なぜうまく弾けないのか」を自問自答しながら練習することが大切です。演奏には多くの可能性が秘められています。音楽を通して「人々に幸せを届けたい」という思いを伝えていくことこそが、音楽を演奏することの意義だと考えています。

5. 児童生徒の感想紹介

○ 音楽演奏家になることは大変だと思いました。たくさんの練習を積み重ねて、もっと上手になりたいと思いました。そして、演奏家になってみんなにすてきな音楽を届けたいと思いました。(小松島小 6年生)

○ 音楽の可能性を考えさせられるようなすてきな講座でした。チェロの魅力がたくさん伝わってきました。音楽の楽しさをみんなに伝えたいという気持ちを大事に自分も演奏を届けたいと思いました。(人来田中 2年生)

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　A02

「弁護士の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　坂本 仁 先生(我妻法律事務所)、目黒 友暉 先生(平松剛法律事務所)
〔所属〕　仙台弁護士会

■ 参加人数　34 人　　講座担当者　藤澤 茂和

「弁護士の仕事」では、仙台弁護士会に所属されている2名の先生を講師としてお迎えし、法曹全体の話を含め、特に弁護士の仕事について詳しくお話を聞きました。後半は、受講者が当番弁護士として模擬接見をする体験活動を行い、弁護士の具体的な仕事に触れることができました。

1. 弁護士の仕事についてのお話



坂本先生、目黒先生より、スライドを使って、弁護士の仕事について詳しくお話ししていただきました。初めに、法律のプロである法曹について、裁判官・検察官・弁護士の共通点や違いに触れながら、それぞれの職責を具体的に教えていただきました。次に、弁護士になるための道のりについて、先生方の体験談を交えてお話をしていただきました。最後に、模擬接見を行い、弁護士の仕事の具体的なイメージを持たせていただきました。

2. 弁護士の仕事①(司法の役割)



弁護士・裁判官・検察官はそれぞれの立場で、法律に関わる仕事をしていますが、人権擁護の目的では共通しています。また、「弁護士は誰の味方なのか」という内容では、依頼者によって立場は異なり、被害の大きさを訴え加害者の責任を追及したり、逆に加害者を擁護したりしているとのことでした。法律という手段を用いて、人権擁護の仕事をすることの大切さを感じる内容でした。

3. 弁護士の仕事②(当番弁護士の仕事)



当番弁護士の体験では、窃盗の疑いで勾留されている被疑者に接見し、質問するというものでした。こどもたちは、被疑者の主張を聴いて、不明な点や矛盾しているところはないかなど考えながら質問をしていました。被疑者が正直に話しているところ、嘘を言っているところの見極めがとても難しいとの感想が寄せられていました。

4. まとめ

弁護士の仕事に就くには、4日間で約20時間もかかる司法試験に合格する必要があり、高度な専門知識を身に付けるための勉強など厳しい道のりがあることが分かりました。一方で困っている人を助けたり、様々な社会貢献ができたりと弁護士の仕事には魅力がたくさんあることが分かりました。講師の方々から弁護士を志す皆さんへ、「自分で考えて正しいと思うことを貫き通してほしい」「積極的に学習や部活動に取り組んでほしい」とのアドバイスをいただきました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ 人の気持ちに寄り添って裁判に挑むという仕事がすごいなと思いました。　(東二番町小 6年生)

○ 弁護士の方から直接話を聞けて、一層弁護士の仕事に興味を持つことができました。　(東仙台小 6年生)

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　A03

「博物館の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　**酒井　昌一郎　先生、菅原　美咲　先生**
　　〔所属〕　**仙台市博物館**

■ 参加人数　19　人　　講座担当者　鈴木　芳行

「博物館の仕事」では、仙台市博物館で勤務されている学芸員の酒井昌一郎先生、菅原美咲先生を講師としてお迎えしました。、前半は博物館とはどのような施設か、学芸員の業務の概要、展示方法に込められた意図や思いなどについて詳しくお話を聞きまし、後半は、展示資料の観察や展示の体験活動等を行い、博物館の仕事に直に触れることができました。

1.　博物館の仕事についてのお話



博物館の役割や学芸員の仕事について詳しくお話しいただきました。博物館とは、仙台市博物館のような歴史・民俗を扱う館だけでなく、科学館や動物園、水族館なども含まれ、そこでの仕事は多種多様です。そのうち、学芸員は資料の運搬、調査・研究、保存、収蔵などはもちろん、展示方法の検討や展覧会の運営などを担います。スライドを使いながら、詳しい仕事の内容や多くの人の協力のもとで館が成り立っていることをお話しいただきました。

2.　博物館の仕事の体験①（収蔵資料の観察）



博物館からお持ちいただいた縄文土器や銅鐸を実際に観察しました。慎重に資料を運んだ後、箱から出す際のこどもたちの顔には、緊張がにじみ出ていました。グループ全員で様々な角度から観察し、それぞれの「気付き」を共有しました。酒井先生から「多くの人が観察することで、資料からは様々な情報が得られる」と、異なる視点での観察や協力することの大切さを学びました。

また、装飾が施された木の板の正体を探る活動では、皆で細部まで観察しながらたくさん意見交換をし、他のグループの板とも比較することで、多くの班が「戸棚の扉」であることを突き止めました。

3.　博物館の仕事の体験②（資料の展示作業）



2～3人1組になり、仙台藩の参勤交代を描いた絵巻物を実際に広げ、ガラス製の「けさん」で押さえる展示作業の体験をしました。こどもたちは、教えていただいた注意点を意識して、慎重に絵巻物のひもを解き、細心の注意を払いながら作業していました。作業をしながら、描かれている大名行列を見て「なんで5人置きに弓を持っていない人がいるの？」「このカゴの中身は何だろう？」などと自然に意見交換が行われ、体験①の経験が生きた場面も見られました。

4.　まとめ

博物館の展示物は、多くの人が関わり、資料の詳細な観察・調査を経て、意図を持って展示されていることを、こどもたちは体験を通して学んでいました。様々ある博物館の展示を見る際、その展示で伝えようとしていること・思いは何なのかをぜひ感じ取ってほしいと講師のお二人はお話しされていました。長い年月をかけて伝わってきた資料を、さらに多くの人、次の世代に伝える博物館の仕事の魅力を感じる講座となりました。

5.　児童生徒の感想紹介

○ 次に博物館に行くときはどういうことを伝えたいのか考えてみようと思いました。　（袋原小　6年生）

○ 説明だけでなく資料を実際に観察しながら理解を深めることができたので、博物館をもっと好きになりました。（上杉山通小6年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　A04

「フォトグラファーの仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　**福田　沙織　先生**
　　〔所属〕　**合同会社　今日一日**

■ 参加人数　16　人　　講座担当者　伊世　貴志

「フォトグラファーの仕事」では、33歳からプロの写真家として活動されている福田沙織先生を講師としてお迎えし、前半はフォトグラファーの仕事の内容や、プロとしての心構え、写真を撮る際のポイントなどのお話を聞きました。後半は、ジュニアリーダーをモデルにして、実際に写真を撮影する体験活動を行いました。

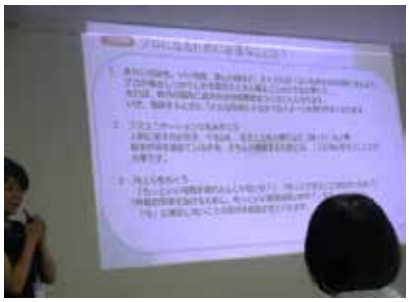
1.　仕事をすることの意味・フォトグラファーの仕事内容



「自分ができること」と「誰かの役に立つこと」が重なると、対価（お金）が発生します。それが仕事です。「自分ができること」を広げ、仕事の選択肢を増やしていくことがとても大切です。

フォトグラファーは、広告用、学校向け、家族向け、風景、報道用など、様々な場面で活躍しますが、趣味の撮影とは違い、相手を感動・大満足させることがゴールになります。相手を感動させる写真こそが、価値（お金）につながります。

2.　プロとして大切なこと



プロのフォトグラファーを支える3つの力として、観察する力、伝える力、諦めない力が大切です。そんなフォトグラファーのプロになるためには、日頃からよいものを見る経験をすること、コミュニケーション力を磨くこと、向上心を持つことが必要です。また、プロとしては失敗しないことも重要で、そのための見えない準備として、機材チェックや現場の下調べ、集中力なども欠かせません。更に、「氣」を読むこと、つまり相手との呼吸を合わせることも重要です。写真というものは、撮影した人の気持ちが不思議と写っているものだということを学びました。

3.　体験「写真を撮ってみよう」



後半は、ジュニアリーダーをモデルにして、2人の希望者が写真撮影に挑戦しました。2人とも普段スマホを使ってよく撮影しているそうですが、撮影の際にはファインダー越しに撮ることがとても大切で、そうすると対象に対する集中力が増すとのことです。画角の中に一体何が写っているか、そこに全集中力を注ぐ。また、モデルに寄り添い声掛けして心をほぐすことも大切。先生のアドバイスを基に、2人とも上手に撮影することができました。

4.　まとめ

講義の中で、「対価（お金）」という言葉がキーワードとして出されました。「自分ができること」が「誰かの役に立つこと」につながった時に、対価が発生する。だからこそ「自分ができること」を広げていくことが、今とても大切とのことです。また、たくさんの対価を得るためには、相手の望むものを考えて与えることが必要。そのためには、「人に関心を持つこと」「聞く力を持つこと」が大切とのことです。これは、どの仕事に対しても大切なことだと学びました。

5.　児童生徒の感想紹介

○ 誰かの役に立つことの意味や、人への接し方の大切さなど、どんな仕事をする上でも大事なことが分かりました。（木町通小　5年生）

○ 相手の気持ちをほぐすことや、諦めないこと、氣を読むことなど、写真を撮る技術以外に大切なことを学べました。（第二中　1年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　A05

「消防士の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　佐久間　大輔　先生、鈴木　桜佑　先生
　　〔所属〕　仙台市消防局　宮城野消防署

■ 参加人数　14　人　　講座担当者　後藤　亮甫

「消防士の仕事」では、宮城野消防署で勤務されている佐久間大輔さん、鈴木桜佑さんを講師としてお迎えし、前半は消防士の所属するそれぞれの部隊の仕事について詳しくお話を聞きました。後半には、実際に身に付けている装備の装着や胸骨圧迫などの体験活動を行い、消防士の仕事を知ることができました。

1.　消防士の仕事についてのお話



佐久間先生より、スライドの映像を使って、消防士の仕事について詳しくお話しいただきました。勤務時間は、24時間勤務となり、1回の出勤で、2日分働くことになることを知りました。また、消防の仕事は多岐にわたり、消火活動を行う警防隊、病気やけがをした人の救急活動を行う救急隊、人命救助を専門にするレスキュー隊など、職務に応じた様々な部署があります。各部署の詳しい仕事の内容や1日の仕事の流れを楽しく学ぶことができました。

2.　消防士の体験①（レスキュー隊）



レスキュー隊の体験では、救助活動で使用する装備類や空気ボンベなどを実際に装着させていただきました。総重量20kgにもなる装備品に、こどもたちは驚きを隠せない様子でした。また、着用時には服の中が非常に暑くなることも知り、消防隊員の仕事の大変さを実感していました。さらに、人命救助で使用するロープの結び方も教えていただきました。普段使われているロープに実際に触れ、その細さに驚く場面も見られました。救助活動の厳しさや責任の重さも感じられる貴重な体験となりました。

3.　消防士の体験②（救急隊）



救急隊の体験では、聴診器を当てて心音をこどもたち同士で確認し合いました。また、聴診器がない場合の脈の取り方も学び、なかなか脈を見つけられず苦戦しながらも、発見した際には笑顔を見せていました。さらに、訓練用人形を使用した心肺蘇生訓練にも挑戦しました。心臓マッサージでは、腕を曲げずに真上から体重をかける必要があり、力加減に戸惑う様子も見られましたが、救命活動の大切さを実感できる貴重な体験となりました。

4.　まとめ（講師からのメッセージ）

消防士の仕事は、突然起こることに対応することになるので、いつでも出動できるように常に動ける準備をしておく必要があります。大変だと思う時もありますが、人の役に立ち、感謝されるすばらしい仕事です。人々の期待を裏切らないようにしていきたいと思っています。将来のためにも、今のうちからたくさん勉強して、人との出会いを大切にし、何事にも前向きに考えて生活していってほしいです。「この講座がきっかけで消防士になりました。」という報告を待っています。

5.　児童生徒の感想紹介

○ 消防士は危険だけど、感謝されてやりがいを感じる仕事なので、消防士になりたいと思いました。　（七郷小　5年生）

○ 消防士は命を懸けてみんなを守るという強い志を感じました。命を懸けて頑張る消防士はかっこいいと思いました。（榴岡小　6年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　A06、B06

「新幹線の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　**東日本旅客鉄道株式会社の皆様**
〔所属〕　**新幹線本部　仙台新幹線乗務ベース、東北新幹線電力ユニット、仙台新幹線レールオフィス、新幹線総合車両ベース**

■ 参加人数　午前36人 午後22人　　講座担当者　奥山　祥彦

日本国内の重要な交通手段であり、世界に誇る技術をもって運行している新幹線。その新幹線を安全に運行するための業務に携わっている方々にお話をうかがいました。それぞれの部署の仕事の内容や仕事への思いのほか、こどもたちが将来の夢を持つことについて熱く語っていただきました。

1.　新幹線の仕事を学ぼう







こどもたちは4つのグループに分かれ、それぞれブースを回り、学習や体験を行いました。

(1) 新幹線乗務員の仕事

乗務員の仕事では、運転士が運転中に気を付けていることや、車掌の仕事内容について映像を見ながら教えていただきました。また、運転士は到着時間を考えながら、10kmごとに速度を計算して運転していることも学びました。

(2) 新幹線の電力の仕事

新幹線に電気を送るために、電圧の調整や電線の整備を行う仕事について教えていただきました。日中に点検や整備の計画を立て、夜間に保守用車を使って作業を行うそうです。また、電線の摩耗の具合を測定する体験もしました。

(3) 新幹線の保線の仕事

East i(電気および軌道総合検測車)で集めた点検データを確認し、整備が必要な軌道を見つけて補修する仕事について教えていただきました。作業は主に夜間に行われ、点検や整備を担当する会社の方々と協力して進めるそうです。また、レールの傾きや減り具合を測定する器具の体験もさせていただきました。

(4) 新幹線の車両整備の仕事

新幹線が安全に走行できるよう、走行距離に応じて点検や整備を行う仕事について教えていただきました。機器検査では、ボルトのゆるみや摩耗を音で確認し、必要に応じて交換するそうです。また、パンタグラフの新品と摩耗したものを見比べたり、実際に触ったりする体験もさせていただきました。

2.　将来の夢について

午前は運転士の方、午後は車両整備の仕事をしている方からお話を伺いました。

運転士の方からは、1編成で約1,000人のお客様を時間どおりに安全に目的地まで届けるという強い責任感を持って仕事に取り組んでいることを教えていただきました。また、新幹線は多くの人の支えによって運行されているため、「周りの仲間を大切にしてほしい」というメッセージをいただきました。

車両整備の仕事をしている方からは、体調管理や時間管理、責任感、コミュニケーション力などの人間力が大切であり、働くことは自分の成長につながるというお話をいただきました。また、「夢中になれることに全力で取り組む気持ちが夢をかなえる力になる」「あこがれや目標となる人を持つことが夢への第一歩になる」というメッセージをいただきました。

3.　まとめ

たくさんの部署の方々からそれぞれの仕事の話をいただく中で、講師の方々が新幹線の安全な運行のためプロとしての高い意識で仕事をされていることが伝わってきました。

また、共通の話として多く聞くことができたのが「自分たちだけでは新幹線は走らせられない」という言葉でした。たくさんの方々が専門的に力を発揮し、力を合わせることで初めて新幹線が安全に運行できるという話から、こどもたちの普段の生活においても、力を合わせたり協力したりすることの大切さに気付くことのできた講座でした。

4.　児童生徒の感想紹介

○ 色々な人が関わって新幹線が運行できるんだなと思いました。　（西中田小　5年生）

○ 新幹線の仕事に関わる人は、一人ひとり意思を持っていて、すべての担当者に共通していることは、安全・安心に乗客を運ぼうという思いだと分かった。　（富沢中　1年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　A07

「天文台の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　須藤 未来 先生
　　〔所属〕　仙台市天文台

■ 参加人数　19　人　　講座担当者　下田 里奈

「天文台の仕事」では、仙台市天文台で勤務されている須藤未来先生を講師としてお迎えし、天文台での仕事について詳しくお話をいただきました。講義の他に、プラネタリウムのプログラムを考えるワークショップを体験したり、小型の投影機で星空を映していただいたりとこどもたちが笑顔で取り組める内容でした。

1.　天文台の仕事についてのお話

校外学習でも訪れる身近な天文台について、その歴史や、普段は知ることができない仕事の内容など、たくさんのお話をお伺いすることができました。天文台の運営やプラネタリウムの投映には、さまざまな企業や職業の方が携わり、多くの業務があること、また、プラネタリウムはおよそ100年前にドイツで誕生したことなど、天文台の存在がこれまで以上に身近に感じられるような興味深いお話に、こどもたちは熱心にメモを取っていました。



2.　プラネタリウムのプログラムを作ってみよう！

仙台市天文台で実際に投映されている「今夜の星空散歩」というプラネタリウムプログラムを自分たちで作ってみました。ワークショップ形式で学びを深める時間となり、こどもたちは、自分の好きな星座や紹介したいエピソードなどを交えながら、「場面」と「内容」を何度も書いては消し、プログラムの骨組みを懸命に考えていました。須藤先生のお話から、このプログラムが2カ月に1回作り替えられていることを知り、短い間隔で次々プログラムが生み出されていることにこどもたちは感心した様子でした。



3.　投影機が映す星空を眺めてみよう！

天文台から小型投影機を持参いただき、暗くした部屋に星空を映していただきました。小型とはいっても、天井いっぱいに広がる星空に包み込まれるような感覚に、こどもたちからは「わあー！」と大きな歓声が上がり、自分の知っている星座を探して指をさす姿が見られました。投影機のコンソールを使って、時間帯や季節などを操作しながら星空を映していることなど、投影機の仕組みについても教えていただきました。



4.　まとめ

ワークショップで実際にプログラムを作り、部屋に満天の星空が広がる「体験」をすることで、だんだんこどもたちの理解や興味が深まっていく様子が印象的でした。遠い宇宙を身近に感じられる天文台には、研究・観測、プラネタリウム等のメディア制作や解説など、さまざまなスタッフの仕事や工夫があることを教えていただきました。講座後には、「また天文台に行きたい」「もっと天文台や星のことを知りたい」という新たな興味や探究心に繋がったことが感じられました。

5.　児童生徒の感想紹介

○ いろいろなことを知れてうれしかったです。夏休みが終わったら、理科の先生に話したい。　（松森小学校　5年）

○ 想像以上に仕事がたくさんあって、私達が楽しく帰れるのはスタッフさんの工夫があってだと思った。（富沢中学校　1年）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号 A08

「学校の先生の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　**伏見　滋　先生（南材木町小学校校長）、遠藤　勝彦　先生（原町小学校教頭）、三浦　絵衣実　先生（上杉山通小学校教諭）、沼倉　まゆみ　先生（東長町小学校教諭）、大町　正子　先生（南材木町小学校社会学級委員長）**

■ 参加人数　21　人　　講座担当者　遠藤 佳奈子

5名の講師がそれぞれの立場からこどもたちに熱く語り掛けていただきました。参加者は学校の先生の仕事について多角的に学ぶことができました。参加者同士が関わり合いながら考えを深め、自分の将来の夢を膨らませることができた、「これぞ！楽学プロジェクト！」と言えるすばらしい講座でした。「授業」以外の仕事（地域との関わり、保護者対応等）や制度（育休、通級指導等）に焦点を当てている点が印象的でした。

1.　初めて会った仲間とともに、学びを深めました



今年も講師の皆様が工夫を凝らして学校の教室さながらの会場を作りました。手作りの「時間割」を皆で確認し、ワクワクしたムードで講座がスタートしました。1時間目の「学級活動」では、自己紹介カードを作成し、グループごとに発表しました。初めて出会う仲間と交流することができました。2時間目の「社会」の授業では、①学校の先生の仕事、②学校の先生になるためには、③職業としての学校の先生、の3つの視点で学びました。こどもたちは伏見先生の説明をよく聞き、真剣にメモを取りながら学んでいました。3時間目の「国語・算数」ではテストの丸付けを体験しました。

2.　学校の先生の「仕事の魅力」を探りました



4時間目の「総合」の時間は、学校の先生の仕事について各講師の話を聞きながら、参加者はさまざまな視点で考えを深めることができました。沼倉先生は多様な児童生徒への支援のあり方と、寄り添う姿勢の大切さについて話してくださいました。三浦先生は自身の体験をもとに、育休制度に守られて安心して働ける環境が整っているという話をされました。大町先生は「地域の学校」の大切さについて話され、学校は地域力にも支えられていると教えてくださいました。それぞれ違った立場の講師からの話に参加者は引き込まれていました。最後に遠藤先生が教師の仕事の本質と魅力について熱く語ってくださいました。

3.　クイズ大会で楽しく交流しました



講座の終盤、一番の盛り上がりを見せたのが、「昼の放送」の時間のクイズ大会でした。「仙台市立小・中学校の先生の数は、男女どちらが多い？」など、仙台の街や学校に関するクイズに参加者全員で挑戦しました。グループ対抗戦で○×形式で行われました。グループのメンバーで協力しながらクイズに解答する中で、参加者同士は自然に打ち解け合い、皆、講座開始時とは別人のようなリラックスした表情でクイズを楽しんでいました。「スタッフ＆ジュニアリーダーチーム」も飛び入り参加し、会場は大いに盛り上がりました。

4.　まとめ

講座を通して「何か一つでも『学び』や『思い出』を持ち帰って欲しい」という講師の願いが叶ったことは、会場を後にするこどもたちの充実した表情と満面の笑みが証明していました。こどもたちは今回の講座を通して、学校の先生の仕事について詳しく学ぶことができただけでなく、教職員と地域と保護者が一体となって、児童生徒の命、そして安心・安全な学校生活を守ってくれているという事に気付くことができました。5名の講師の熱いハートと、こどもたちの学びに向かう意欲にスタッフ一同が感動して、講座は幕を閉じました。

5.　児童生徒の感想紹介

○ いろいろな講師の方から話が聞けて、学校の先生という職業についてすごく興味がわいた。

○ とても楽しかったし友達もできたから来年も受講したい。学校の先生になりたいという気持ちになった。

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　A09

「しょうがいのある方を支える仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　半沢　まり子　先生、佐藤　和仁　先生、早坂　梨琴　先生
江渡　彩夕子　先生、梶原　美未来　先生、村上　泰庸　先生
〔所属〕　社会福祉法人　つどいの家

■ 参加人数　17　人　　講座担当者　渡辺　聡

「しょうがいのある方を支える仕事」では、社会福祉法人つどいの家で勤務されている半沢まり子先生、佐藤　和仁　先生、早坂　梨琴　先生、江渡　彩夕子先生、梶原　美未来先生、村上　泰庸先生を講師としてお迎えしました。前半は、しょうがいのある方を様々な方法で支える仕事について詳しくお話を聞きました。後半は、軍手をして折り紙を折ったり、指文字で実際に相手に単語で伝えたりするなど、しょうがい当事者としての体験活動等を行いました。

1.　「みんなちがってみんないい」



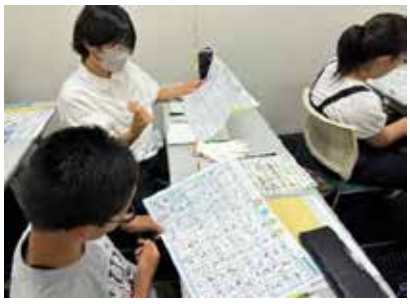
仕事の内容を知る前に、先生方は、「しょうがいのある利用者さんも私たちも皆、得意なこともあれば苦手なことがあるのだという考えのもと、しょうがいがあることは悲しいことではなく、『みんなちがってみんないい』という言葉どおり、一人一人が生活しやすい社会にするためにはどのようにしたら良いかを一緒に考えていくことが大切です。」とお話されていました。

2.　具体的な仕事①（コミュニケーション・食事の介助）



手足の不自由な利用者さんが、職員からの質問に表情などで意思表示をすることなど、一人一人の違いを知っていくことを通して、利用者さんを手助けする方法を本人や仲間と共に考え、代弁など助ける方法を決めていきます。利用者の心にどのように寄り添い、笑顔にすることができるかを考えていくことが大切であるとお話されていました。また、食事をする際は、食べ物を刻んだり、ペースト状にしたり、通常食だったりと、利用者さん一人一人に合わせた形で様々な工夫がなされていました。

3.　具体的な仕事②（排泄・歩行の介助）



利用者さんが排泄する際には、プライバシーなどへの配慮や、衣服の着脱方法を一緒に考え、怪我のないように十分に注意しながら行っているとのことでした。また、歩行の際には、本人の姿勢をできるだけ維持するために、車いすや机の形状に工夫が施されているとのことでした。いずれにしても、介助によって利用者さん自身ができることを増やしていくことを大切にしているとお話されていました。

4.　まとめ

福祉の仕事として高齢者やしょうがいのある方たちが、安心して自立した生活を送れるようにサポートすることだとお話されていましたが、そもそも私たちは苦手なこともあれば得意なことがあり、苦手の部分を様々な工夫や支えによってできることを増やしているので、しょうがいのあるなしにかかわらず、どのようにすればできるようになるのかを一緒に考えていくことの大切さを教えていただきました。（講師の皆さんからのお話から）

5.　児童生徒の感想紹介

○ 利用者も施設の方もみんな楽しくニコニコ笑っていて、この仕事は温かく良い仕事だと思った。　（荒町小　5年生）

○ しょうがいのある方を支える仕事とは、支えたり助けたりできることを増やしたりするお仕事なんだと思った。（秀光中　3年生）